

# 研究主題に迫るために

「主体的・対話的で深い学びに向かう授業」モデル

「授業改善の視点・具体的な方策」カード (A~O)

第12期(平成30年度・令和元年度)

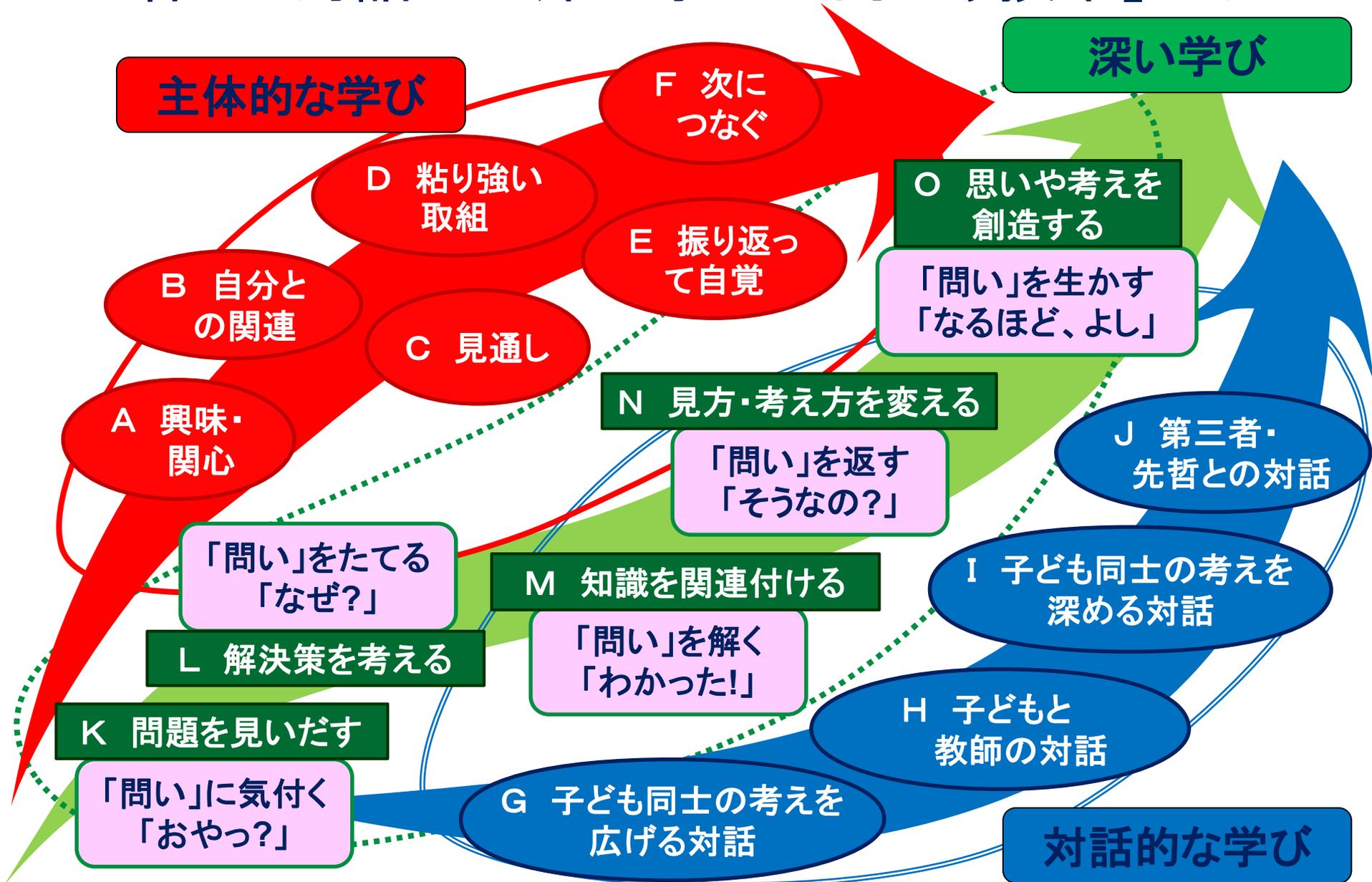
第13期(令和3・4年度)

第14期(令和5・6年度)

2年サイクル  
6年スパン

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、統一大会を翌年に延期したため、研究推進も1年間延期した。

# 「主体的・対話的で深い学びに向かう授業」モデル



# 「主体的な学び」

## A 興味・関心

子どもに学ぶ意欲を持たせるために、知的  
好奇心が高まるような導入を工夫する。

### 具体的な方策

- ア 「びっくり」「何でだろう」「どうしたらいいの」と感じさせる導入の工夫
- イ 既習事項と関連付けて「問い」が起こる導入の工夫
- ウ 意識の「ずれ」が感じられるような教材の開発
- エ 固定観念がくつがえるような教材の開発

自分のこととして学習問題を捉えられるような働き掛けをする。

### 具体的な方策

- ア 単元導入前の子どもの問題意識の醸成の工夫
- イ 子どもの「問い」や「思い」から学習課題・問題をつくる工夫
- ウ 子どもが追求したくなるような学習課題・問題の工夫

解決への見通しを持たせるための、学習計画を立てさせる。

### 具体的な方策

- ア 授業のねらいを意識した学習課題の工夫
- イ 予想や仮説を立てる時間の保障
- ウ 自分のわからなさの見える化
- エ 自分なりの解決方法の選択・決定
- オ 個々の子どもに応じたヒントカードの準備
- カ 学習の流れがつかめるような学習手順の提示

問題意識を高め学習の必然性を持たせる。

### 具体的な方策

- ア 辞書や本を使って学習を進める環境の整備
- イ 学習の流れと理解の進み具合の視覚化
- ウ 中間発表における視点の工夫
- エ 少し高く乗り越えられる課題・問題の設定

学習したことを生きてはたらくようにするための振り返りをさせる。

### 具体的な方策

- ア 自分の考え方と生き方を関連付ける工夫
- イ 実生活と結びつける工夫
- ウ 社会参画につなげる工夫
- エ 自分の成長を自覚させる工夫
- オ 自己評価の方法の工夫

実生活や次の学習につなげる意識を持たせる。

### 具体的な方策

- ア 他教科との関連
- イ 学んだことの他者への発信
- ウ 学んだことが生かせるような場づくり

# 「対話的な学び」

G 子ども同士の考えを広げる対話

対話をする目的と相手を意識させる。

## 具体的な方策

- ア 話し方・聞き方（ルール・マニュアル）の工夫
- イ ジグソー法など多様な学習形態
- ウ ラーニングピラミッドの活用（対話の目的の意識化）
- エ 立場と根拠・理由を明確にした発表
- オ 語彙力を高める工夫
- カ 支持的風土の確立

子どもが対話しているとき、教師の支援を工夫する。

### 具体的な方策

#### ア 教師支援の工夫

- ・ 対話を促す板書の構造化や教材の活用 など

#### イ 教師の言葉掛けの工夫

- ・ 抽象化⇔具体化の思考を促す切り返しや言い換え など

#### ウ 意図を明確にした支援の工夫

# 「対話的な学び」

## I 子ども同士の考えを深める対話

形態を工夫し、個人、ペア、グループ、全体学習とすすめて、自分の考えを深めさせる。

### 具体的な方策

- ア 学習形態の計画的な活用（個人→ペア→グループ→全体）
- イ 教師の立ち位置、目線、表情
- ウ 1人1台端末の効果的な活用
- エ 他者の発言をもとにした自分の意見の構築
- オ ディベートの活用

計画的な単元構成をする。本物にふれあわせる。場の設定と必要感を持たせる。

### 具体的な方策

- ア 必要感・目的意識の持たせ方
- イ 計画的な単元構成
- ウ ゲストティーチャーの活用

# 「深い学び」

K 問題を見いだす

「問い」に気づく。  
「おやっ？」

## 具体的な方策

- ア 学習内容と日常生活・社会とのつながりを考えさせる工夫
- イ 知的好奇心をくすぐる課題の提示
- ウ ドリルや復習でない家庭学習の工夫
- エ 子どもの認識のずれを大切にされた問題や課題の提示

# 「深い学び」

## ↳ 解決策を考える

「問い」をたてる。  
「なぜ？」

### 具体的な方策

- ア 子ども自身が立てた学習課題
- イ 子どもの考えがずれる発問
- ウ 学習問題の追究表の作成
- エ プラス思考になり、もっとやりたいと思う課題の提示

「問い」を解く。  
「わかった！」

### 具体的な方策

- ア 考えの根拠を明確にした説明
- イ 「ああ、そうだったのか」と納得するまとめ方
- ウ 子ども自身の言葉でのまとめや表現
- エ 考えの違いや深まりが見えるようなノートや板書の工夫

「問い」を返す。  
「そうなの？」

### 具体的な方策

- ア 個人から大きな概念へと、視野を広げさせる発問の工夫  
例えば、「私は」→「私たちは」→「地域」→「国」→「世界」
- イ 思考ツールを活用し多様な考えを焦点化したり新たな問いを持たせる工夫
- ウ 予想を覆す事実や英知を集めないと解決できない課題の提示
- エ ディベートなどを活用し、多様な見方・考え方に気づかせる工夫
- オ 次の課題が生まれるような振り返りの工夫

# 「深い学び」

○ 思いや考えを創造する

「問い」を生かす。  
「なるほど、よし」

## 具体的な方策

- ア コミュニティ・スクールや地域学校協働本部など、人材、視野などが広がるような、しくみの設立
- イ 自分たちで作ったプランを地域などで発信したり実践したりさせる工夫
- ウ 教育活動と地域行事・活動とのリンク
- エ 各教科等の学びや社会とのつながりを実感させるカリキュラム・マネジメント
- オ ICTの活用による他校・社会・海外との交流